

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 137 号

平成 29 年 4 月 1 日発行

発行所 : 旭労災病院

〒4888885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

平成29年度全国労災病院外科共同研究について

外科部長 小川 敦司



北海道から九州まで全国にある労災病院32施設の外科で毎年共同研究を行っています。患者様の早期社会復帰を目標に腹腔鏡手術であったり、抗癌剤治療であったり様々な外科領域疾患についてテーマを決めて検討を行っています。

まずは平成28年度の結果報告をいたします。研究目標は全国の労災病院における手術部位感染（以下 SSI）の発生状況と対策の現状を把握し、多施設での調査結果を検討し、SSI の有効な対策を探ることでした。

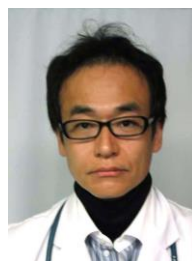
各施設様々な取り組みを行っていることが報告されましたが当院における術前処置、抗生物質、創部洗浄、手袋や手術器具の同一手術内の変更等様々な予防策は他の労災病院と比較しても大きな違いなく、また SSI 発生頻度も他施設と比べて大きな違いは認めませんでした。

今回の発表では当院が行っていない興味深い報告もいくつかありました。一つは下部消化管手術における前処置に通常機械的前処置に加えて術前日の経口抗菌薬を用いた化学的前処置を行った方が SSI 発生率が低下したという報告。また下部消化管穿孔症例に対する局所陰圧閉鎖療法（Negative Pressure Wound Therapy）で SSI 発生率が低下したという報告などです。いずれも理論的には SSI 発生率低下の可能性が考えられますがそれぞれメリット、デメリットがあり直ぐに当院に導入すべき処置とは言えませんが共同研究で採用されるかは今後検討されると思われれます。

平成29年度の外科共同研究は今回の報告された全国労災病院における SSI の発生状況と対策の現状といった調査結果を検討することによって、SSI の有効な対策を探り、さらにこの対策を全国労災病院で実践する Prospective な研究となる予定です。

最近の戯言

循環器科部長 森本 高太郎



子供が5歳になった。昨年夏がきて虫取りをしたいと言い始めた。これは困った。ネットなど情報頼りに早朝の森林公園に行ってみた。色々と歩き回った末一本の木に沢山カブトムシが張り付いているのを見つけた。周りに沢山樹液が出ている木があるのに、よりによって1本のみ集中している。帰ってきてこの事態を論文検索してみたがそれを説明するものはないが、食と出会いの機会が重要、との記載はある。

そこで以下、食と子孫、本能に根付く項2つで数理モデルを構築してみた。
誘因力= a (現在木に張り付いている虫の数; 特に雌?) + b (樹液量)

a 、 b はフェロモン、気候、などによる定数

→虫は毎年同じ木で楽に採れる可能性が高い。

研修医がほぼ、来なくなった。

大病院志向であるという、何を今更

医学生の幼少からの教育課程 (安全安心ゴールドスタンダード)

を考えれば当然、と聞こえそう。

しかし研修医が多い病院は概ねうまくいっていることに異論はない。

これについても単純化すべく考えてみた。

標準的な学生に対する魅力度= A (現在在籍する研修医数) + B (病院の資金力)
と仮定 A 、 B は地域による定数

十分な時間をおいた結果はどのようなものであろうか。

➡➡歴史のある地域で一番の病院に一極集中

その他紹介専門の診療所、大病院の完全な下請け業務を主体とする衛星病院のみ、生き残る結果となろう。

もしかするとニッチな領域で診療を施す仮定から外れた病院も生き残れるかもしれない。

この単純明快な仮定にあながちズレはない気がする。

しかしこれで高齢者医療に対応しうるのは別問題。

最近入試に面接も多いようだ。学生の均一化、も数理モデルの構築をたやすくしうる。

しかし上記の過程から少し外れた学生にまだ望みはある、と期待したい。

個人的には例えば⇒田舎高校の医学生、いや〇海高校で、オタクでもよい。

変れるかもしれない！

当初の原稿はここまで、であったがこれではうちの病院の解決策は如何？

という指摘があり甚だ机上の空論を付け足した。

魅力度に関しては B 以下の項はどうやら不変。すると A 以下の項をどう工面するか。これは大病院に借りてくる、でどうか。サクラと揶揄されても多分効果はある。

結論は

- ① 大病院の衛星病院となる。
- ② ニッチな診療をおこなう。
- ③ 守備範囲を絞り地域一の病院となる。

最後に

当院循環器科としては以前と変わりなく③に根ざして診療を行っておりますのでよろしくお願いたします。

新任医師あいさつ



小児科副部長
上田 晶代

はじめまして。

3月より旭労災病院小児科に着任しました、上田晶代と申します。

平成11年に島根医科大学（現島根大学）を卒業しました。

出身は静岡県です。

大学卒業後は名古屋市立大学病院小児科で研修後愛知県、三重県、静岡県で勤務しておりました。前任地は小牧市民病院です。

不慣れでいろいろご迷惑おかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願い致します。

医師異動のお知らせ

新任医師

病理診断科部長	おの けんぞう 小野 謙三（昭和53年3月信州大学卒）
循環器科副部長	あきた のぶかつ 秋田 展克（平成13年3月名古屋市立大学卒）
内科医師	てらしま よしゆき 寺島 良幸（平成20年3月名古屋市立大学卒）
外科医師	いしい けんた 石井 健太（平成21年3月名古屋大学卒）
呼吸器科医師	くろかわ りょうた 黒川 良太（平成22年3月名古屋市立大学卒）
消化器科医師	きむら みきとし 木村 幹俊（平成22年3月愛知医科大学卒）
耳鼻咽喉科医師	かわで ゆか 川出 由佳（平成26年3月愛知医科大学卒）
研修医	みくら こうたろう 三倉 康太朗（平成28年3月愛知医科大学卒）

平成29年4月1日付

退任医師

外科医師	山下 浩正
リハビリテーション科医師	印南 智弘
循環器科医師	西 大輔
消化器科医師	野原 真子
呼吸器科医師	藤田 浩平
呼吸器科医師	井上 芳次

平成29年3月31日付